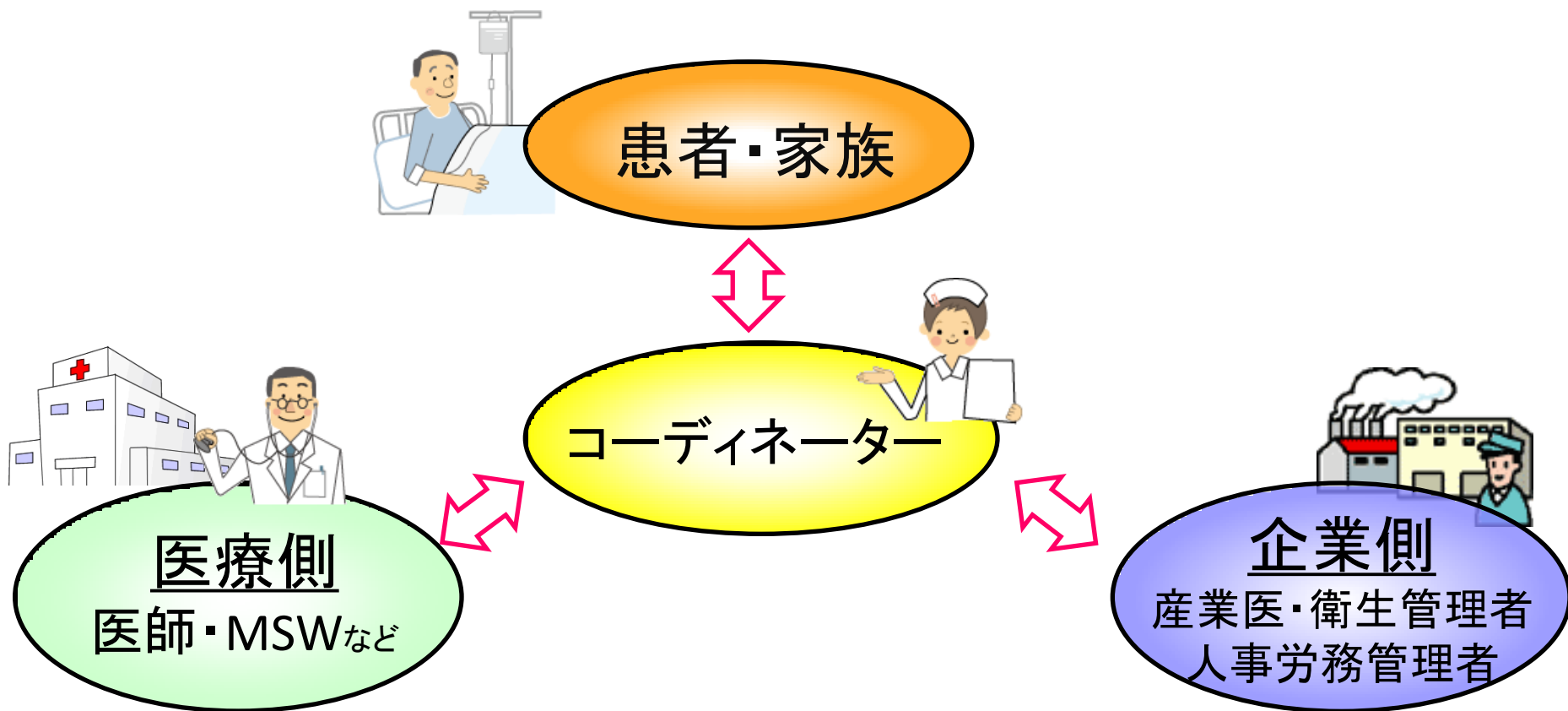


# 治療と職業生活の両立支援体制の確立(将来)



## 【目標】

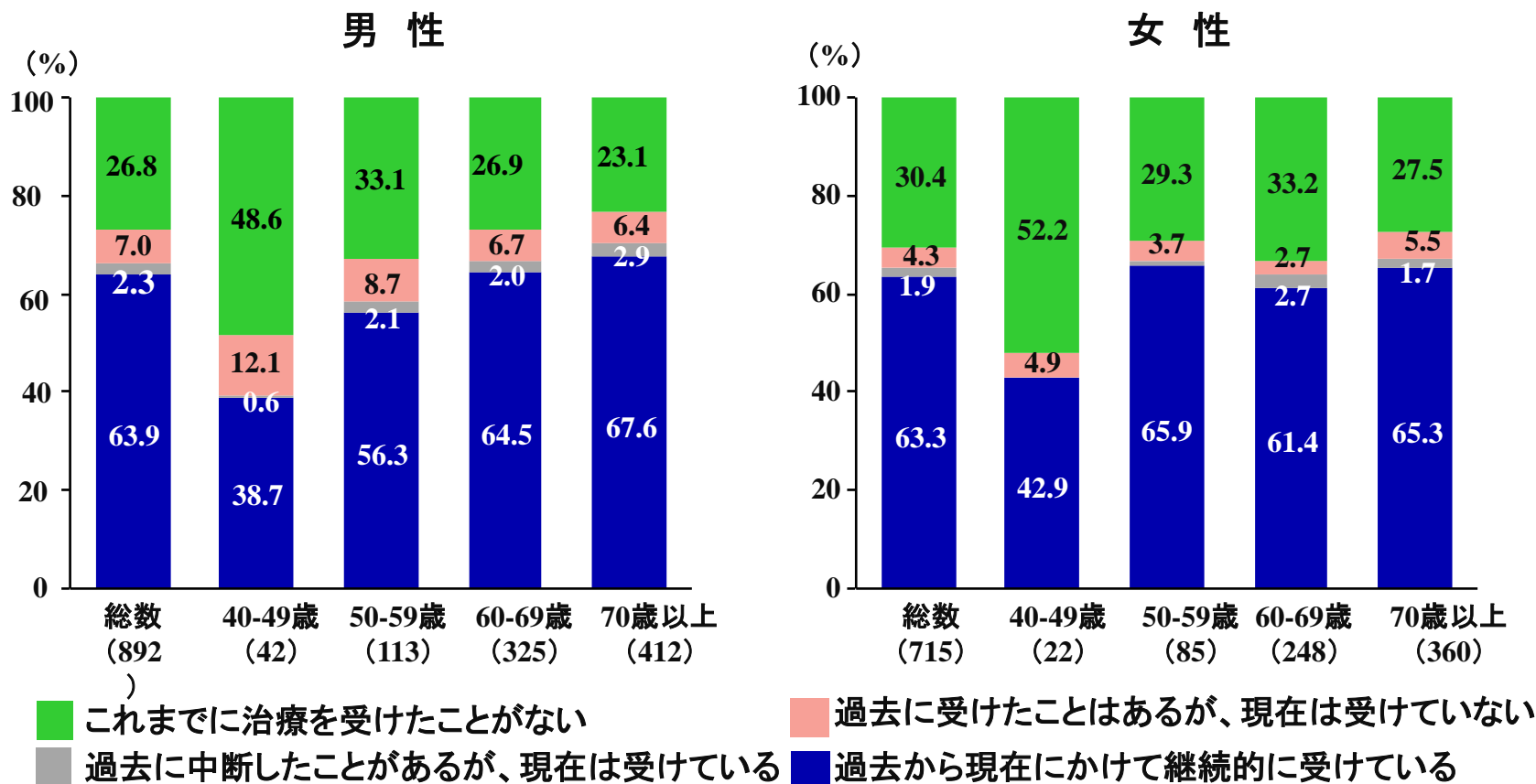
- ・ 「患者・家族」「医療側」「企業側」といった関係者間の仲介・調整を行い、治療方針、職場環境、社会資源等に関する情報の収集・整理を行う等の役割を担うコーディネーターの配置・養成
- ・ 「がん」「糖尿病」「脳卒中（リハ）」「メンタルヘルス」の4分野について、医療機関が治療と就労の両立支援に取り組むためのマニュアルの作成

# 就労と糖尿病治療

- 1) 糖尿病の合併症は、良好な血糖管理を維持できれば予防可能であり、治療の継続が必要です。就労糖尿病患者さんが真摯に治療に取り組むためには、治療と仕事の両立が円滑に行われていることが必要です。
- 2) このため仕事をしている糖尿病患者さんと主治医、そして会社にいる産業医を含めた産業保健スタッフが連携して治療サポートを行っていくことが非常に大切です。
- 3) 労災病院の両立支援スタッフは、仕事の問題で糖尿病治療に困難を感じている患者さんと面談や相談をしてその解決策を共に考え、必要があれば会社のスタッフに連絡し対応を共に考えていきます。
- 4) 逆に会社で就業上の問題があり、糖尿病主治医に伝えたい事柄があれば、その事を記載するような「両立支援手帳」を用意しています。

# 現在治療を受けていない患者さんは3割以上

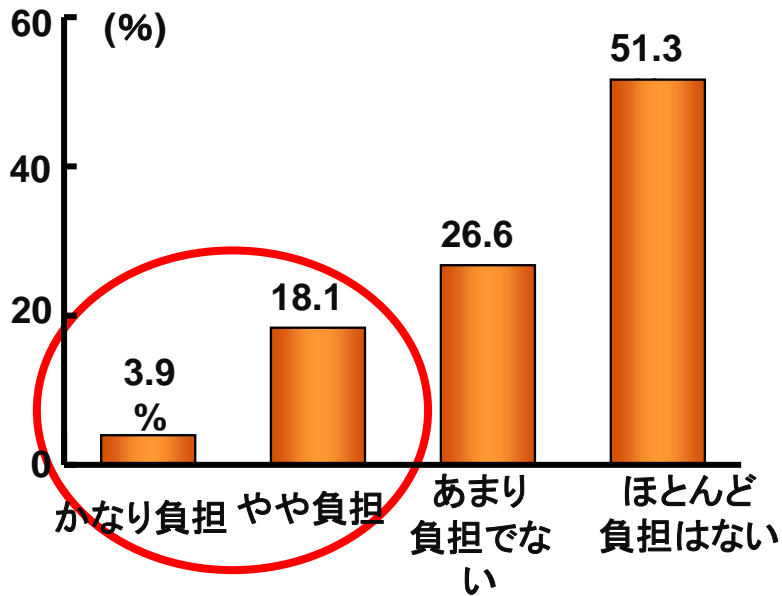
「糖尿病が強く疑われる者」における治療の状況  
(40歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



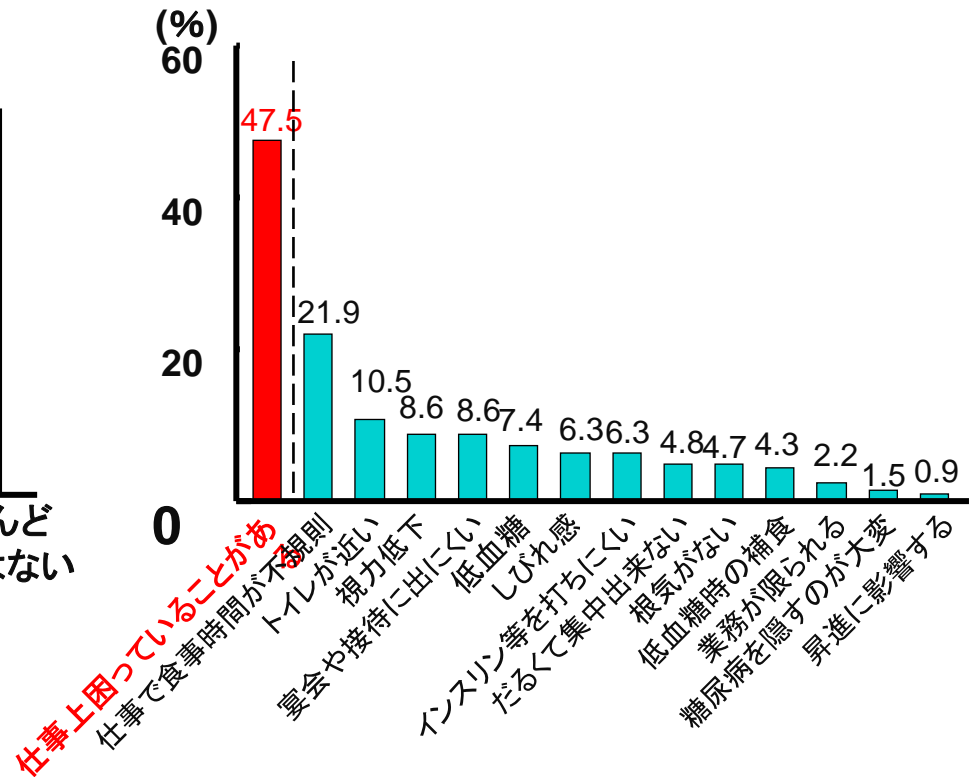
※「これまでに治療を受けたことがない」は、「医師から糖尿病と言われたことがない」者を含む。

# 勤労者は糖尿病のため仕事の上で困っています

Q.糖尿病であることは仕事上の負担になっていますか？



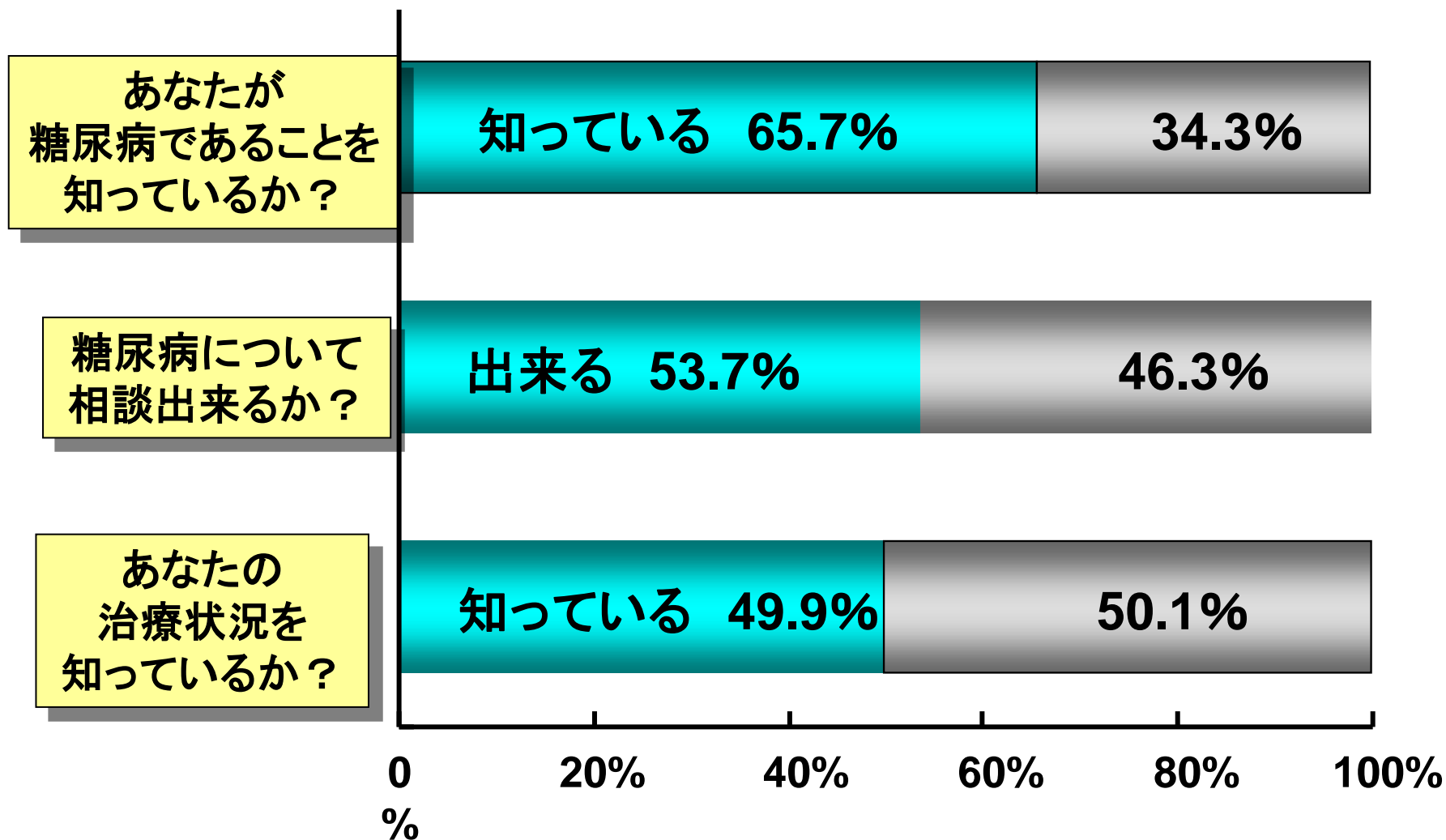
Q.糖尿病であることで、仕事上困っていることは？(複数回答可)



(2012年 全国労災病院における調査より)

# 職場における医療スタッフとの関わり

～医療スタッフがいる事業所に勤めている場合～



(2012年 全国労災病院における調査より)

# 糖尿病に関する両立支援の流れ

初診時

両立支援期

療養期

①受診・診断



③ケースカンファレンス



⑤フォローアップ

「両立支援手帳」を用いて  
事業所と労災病院間で相互に連絡をとる

②説明と同意・情報収集

患者さんに医師・看護師・MSWから支援事業の説明を行い同意を得る



患者さんから基本情報・就労情報を収集

病態・症状、仕事・勤務状況より支援方針を検討・決定  
(管理栄養士、薬剤師、事務員も参加)

④糖尿病治療と就労上の管理指導



医療スタッフと事業所が協力して患者さん(就労者)を支援

